

令和5年度 第1回 長野市災害復興計画検討委員会

日 時：令和5年12月22日（金）午前10時から午前11時5分まで

場 所：第一庁舎5階 庁議室

出席者：委 員 長野市災害復興計画検討委員会委員 16名

オブザーバー 千曲川河川事務所、長野地域振興局、長野建設事務所

事務局 企画政策部長、地域・市民生活部長、保健福祉部長、環境部長、農林部長、
建設部長、都市整備部長、教育次長、危機管理防災監、企画政策部参事、企
画政策部秘書課復興対策室

※代理出席あり

1 開会

2 委員長挨拶

3 議事

資料1、2について説明

【質問・意見】

<委員>

資料1の1ページ目、長沼地区の公共施設等整備全体図の長沼支所・交流センター、河川防災ステーションについて、何年度までに完成するとかスケジュールが示されていません。

先ほど調整中というお話ありましたが、昨年度の時点では、今年度の実施設設計が開始され、6年度には、工事が開始できそうなスケジュールだったと思います。地区としては、これまでワークショップなどで、交流センターや支所などの使い方やレイアウトなどいろいろ検討してきましたが、今後のスケジュールが示されない中で、住民の方が施設の活用方法などを検討するにしても熱が入らなくなっています。また、2ヶ月ほど前に市と国から説明を受けましたが、その時点では、スケジュールは示されず、現時点でもまだ調整中ということですが、何年度までに完成するのか、緊急治水対策プロジェクトと一緒に終わらせることはできるのか

聞きたいと思います。

<市>

現在、河川防災ステーションでは、埋蔵文化財調査をしており、それが終わると、国に地盤改良と盛土をしていただく予定です。

市としますと、その後、複合施設の実施設計、建物を整備していくということとなりますので、長野市側のスケジュールとしますと、盛土から約3年と見込んでいます。

国の河川防災ステーションの盛土等のスケジュールによるところがありますので、そのあたりについて、千曲川河川事務所長からご説明いただければと思います。

<国>

長沼の河川防災ステーションにつきましては令和3年に登録を受け、その後、長野市や地域の住民の方々とも連携し、住民説明会やワークショップなどを通じて、計画づくりを進めており、現在、埋蔵文化財センターによる埋文調査を進めています。

今後、長沼支所がある複合施設エリアや資材備蓄エリアでの地盤改良工事や盛土の工事に着手し、河川防災ステーションの本格的な整備を進めていきます。

現時点でいつ完成するのかをこの場でお示しすることは困難ですが、まず防災ステーションの地盤改良の工事を間もなく始めていく段取りで準備をしていますので、引き続き地域の皆様のご理解ご協力を得ながら、市と連携して進めていきたいと思っています。

<委員>

緊急治水対策プロジェクトが完了するまでにはできるのか。それもまだ目途が立っていないのか、その辺がよく見えないのです。

<国>

緊急治水対策プロジェクトとしては、堤防の強化工事とか、河道の掘削等々ありますが、こちらは令和9年度までの完成を目指しています。

<委員>

それとフェーズが合っているのか、河川防災ステーションもそれまでにはできるのか知りたい。

<国>

現時点では何年度までにこの河川防災ステーション、長沼支所等を含めていつまでに完成するのか、大変恐縮ですがこの場でお示しするのは困難な状況です。

<委員>

そんなに遅れているということですか。1年ぐらい前までは、令和6年かその辺で複合施設の工事に入るようなスケジュールでしたので、今そういう状態にあるのはいろいろ問題があって仕方ないとは思いますが、せめて、地元に予定ぐらいは示していただきたい。スケジュールが分かった時点で、それを住民、住民自治協議会にぜひ説明していただかないと、今後の地区として検討するにあたり困るのでお願いしたい。

<国>

複合施設については長沼支所、交流センターを兼ねていますで、国としても優先的に整備をしていきます。この場でいつまでに完成というのをお示しできないのは大変心苦しいのですが、市とも連携しながら、地区での説明会も丁寧に説明させていただきながら進めていきます。

<市>

河川防災ステーションにつきましては、当初より、用地買収が若干遅れたことや、埋文調査で、かなり出てきており、当初の想定よりは伸びているというところがあります。また、盛土するにあたってしっかりと地盤改良工事が必要になってくるということもあり、それをしっかりやっておかないと、将来的に周りの地盤にも影響を及ぼすということがありますので、その手法等も含めていろいろ調整いただいております。

ただ河川防災ステーション全体の中でも、市の施設のエリアを最優先で地盤改良、盛土をして、まずは建物を建てていく、そのスケジュールを最優先で調整させていただいておりますので、現時点では明確なスケジュールとしてお示しできませんが、ご理解いただきたいと思います。

<委員長>

もう用地買収が済んでいて、方向性が出ていて、ただ埋文なんかがあるとすると、その量とか規模とか、いろいろな物もあって、期限が決まっているので調査やめますということも難しいと思います。

でも、決まっている方向性というか、これとこれは作ると決まっているように受け取られるのですがいかがでしょうか。

<委員>

確かに遅れているのは仕方ないですし、地区のほとんどの人は、遅れているという話は聞かえてきていますが、遅くとも令和9年度までにはできるのだろうというのがイメージとしてあります。緊急治水対策プロジェクトがありますから、それにフェーズが合っていると思っています。

やっぱり複合施設について、いつまでもプレハブでスペースがないようなところで、ひょっとしたら令和9年度になってもできないかもしれない。その辺は住民に進捗状況をちゃんと説明して、理解を得るような方向で調整していただきたいと思います。

<委員長>

いつまでも支所がプレハブでは困りますよね。面積とかはもう決まっているのでしょうか。何平米ぐらいのものを想定しているとかありますか。

<委員>

決まっています。ワークショップとかいろいろ長野市と検討して全部決まっていて、もうすぐ1年後ぐらいに工事が始まるような感じだったときに、突然先が見えなくなってきたものですから、使い方とかその辺を検討している地元としては、出鼻をくじかれるというような感じがしています。

<委員長>

盛土をして造るということは、調整池の計画と合わせてやっているのかと思いますがその辺はいかがでしょうか。そうするとその調整池の計画、盛土も地盤改良してから盛土しないと何か工法的に問題があり、その辺の調整など苦労してらっしゃるのかなと思いますがいかがでしょうか。地元の人にももちろん安心できるような、もう少し言える範囲で結構ですがいかがでしょうか。

<国>

河川防災ステーションのエリアは面積で4ヘクタールほどです。ここで地盤を調査していますが、軟弱の地盤が出てきているということで地盤改良が必要とわかってきました。このま

ま、何もせずに盛土しますと、その盛土によって地盤が沈下したり、周辺に変形などがあるということもありますので、必要な対策について、まずは地盤改良工事をして、その後、盛土工事をしていく予定で考えています。

盛土につきましては、緊急治水対策プロジェクトで進めております遊水地とか、河道の掘削で出てくるような土砂も有効活用しながら、進めていくということも考えています。

<委員長>

地元に住んでおられるからご存知だと思いますが、大正時代から氾濫の度に、河道も移動していたりとかいろいろあるからあの辺の地盤は一樣ではなく、しっかり地盤改良しないと盛土によって周りのリンゴの木が浮き上がってきたとなっても困るし、そのような調査がきつと先にあって、では地盤改良はどういう工法で、どのくらいの規模でというのを検討していると、やっぱり時間が少しかかったのかなというような気もしますが、そういうことですか。

<国>

国としても重要な施設ですし、上に長沼支所、交流センターを建てますので、慎重に検討を進めているというところです。

<委員長>

もっとわかりやすい見える化したような情報があれば、地元住民とのワークショップも熱が入るところがあるのであれば、市の方を通じてまた要望していただければいいなと思いますかどうか。

<委員>

いずれにしてもいろいろ理由があってそうなってるので仕方ないのですが、長野市や国から、今の状況、どんな感じなのかというのは、住民に説明して欲しいと思います。

<市>

委員にはワークショップの担当をやっていただいて、その中で複合施設のエリア、将来にわたって長沼の地域を盛り立てていこうということでもいろいろ検討いただいて、支所等の図面等も検討してきているところです。

今後のスケジュールや地盤改良等の工法などについて、来月、地元の皆さんに説明する予定となっています。これは長沼地区の堤防等管理委員会の方ともお話しさせていただいて、住民の

皆さんにぜひ説明をということで、今計画しておりますので、その日時等含めて、皆さんにお知らせする予定ですのでよろしくお願いいたします。

いずれにしても今までせっかく進めてきた計画が、途中で熱意がなくなってしまうとか、そういうことにならないように、今、まちづくり委員会も一緒に進めているところで、皆さんのために使っていく複合施設エリアについて頑張っていきたいと思いますので、ご理解よろしくお願いいたします。

<委員>

今日の資料とはちょっとずれてくるところもありますが、千曲川の流れが止まると明らかに松代の水門が閉められることになります。そうすると、結局は松代の中に内水氾濫が起きることが目に見えているということです。そこで、長沼にかなり強固な堤防ができ、篠ノ井の軻良根古のところも結構いい堤防ができました。そうすると松代の人たちはどう思うかというと、次切れるのは松代だよな、となるわけです。というのは、実際に 19 号の時も部分的に溢れてますから、その部分はもう低いとわかりきっているので、その低いところに水が必ず来ると、もうそこから水が溢れ出せば切れるわけです。

19 号災害の前から、そのところはかさ上げしようという話がありました。ところがポイント打つところまでいって、この辺までいかないと駄目だなとか、家の関係があつたりとかするので、どうしても動かさなければいけない部分がありますから、その後、止まってしまいました。これでかさ上げになるなと思ったら、ならないで、土嚢を置いただけで終わってしまいました。

となると、あの時よかったと思ったのは一体何だったのかという思いがありますので、住民自治協議会で結構ですので話をしておいてもらわないといけないと思います。

また、河川愛護会もありますので、ぜひ一緒に話をさせていただいて、これからの予定みたいなものが見えてくると、もうちょっとみんな安心するのかなと思います。

もう 1 点、更埴橋のところ、土手のところに千曲川の流れが突き当たっています。それでまた流れていくので、そのところにしてみれば、今度はいつ、その土手がつき破られるかわからないという思いがあります。この曲がったところをそのままずっと水を流してもらえば、土手の負担が減るのではないかと河川愛護会や住自協でもお話をしますが、その当時、予算がないから始まって、下流からやらないと、上流ばかりやっても駄目だというようなことでそのまま話が進まないというような状態があります。ですから今度、松代が切れるとしたらそのとこだと思いますので、ぜひその前に、このところはこういうふうにしていったらどうだという話をしておいてもらいたいというお願いです。

それからもう1点、先ほど水門を閉めると話しましたが、神田川と蛭川に水門があって、そのところがいっぱいになれば溢れるのは当たり前だと思うのですが、災害の後、そこの下を河道掘削してもらったら、人の背丈くらい掘ってもらえました。そうすると、ここまで土手がちゃんと作ってあるというように、下までちゃんと見えてくるわけです。今までこのところは県の方で何を見ていたんだろうというような形で申し訳ないのですけれど、ここまで退席したら掘っておかなければいけないという目安を作ってもらって、引き継いでいってもらいたいと思います。

そうすると町の中でも、それに合わせた形で、この水門を閉めたら逃げろとか、そういう話ができるということをお願いをしたい。

<委員長>

確認ですが、今のお話は、県が担当している蛭川の方の堤防のお話なのですか、曲がってきぶつかってるのは千曲川のことですか。

<委員>

ぶつかっているのは千曲川で、河道掘削の話は蛭川です。後半の方は蛭川と神田川のことです。そこも新しく作っている部分がありますので、そうすると、初めに作った想定の断面があるはずなので、それに合わせた形でその断面をいつも確保しておいてもらいたい。そうでないと松代は水を止めるところがありません。

<国>

松代地区周辺の堤防の関係ですが、現在、国では令和元年東日本台風を受けまして、緊急治水対策プロジェクトを令和9年度目標で進めています、これは令和元年東日本台風レベルの洪水が流れた際に、堤防からの越水による家屋の浸水防止を図るという目標で進めているところです。

堤防の整備もやっていますが、河道掘削、例えば下流の立ヶ花狭窄部の掘削等々やっていますし、遊水地も上流側でこれから整備する予定もありますので、こういった対策をすることによって千曲川の本線の水位は、だんだん低下していくという状況です。松代地区につきましても現場の状況を見ながら、しっかり今後の対応を考えていきたいと思っています。

それから関連で更埴橋のところは、また改めて現場を見させていただいて、これも日々河川巡視ということで職員が現場で危ないところはないか等々、確認したりとか測量も定期的に行っていますので、洪水時に支障があるということであれば必要な対策について実施したい

と考えています。

<委員>

それでは、ぜひ住民自治協議会或いは河川愛護会の方とも話をしてもらいたいと思います。

<国>

そういった取り組みを進めていること自体を、我々はなかなかうまく地域の方々に伝えられていないという部分はあると思いますので、ぜひ住民自治協議会等を通じて地域の方々に説明していきたいと思います。

<建設事務所>

蛭川・神田川につきましては、一級河川ということで長野県が管理しています。

先ほどの堆積土の掘削は松代、若穂など管内一円で実施しています。河川には決められた断面がありまして、特に神田川については、堆積したものが大分たまっていたということで規定の断面に掘り下げたところです。予算の話で大変恐縮ですが、これは国の国土強靱化というお金を使ってできたところです。本来は県自体が、河川の維持管理のために、県単独費を使いながらやらないといけないうところを、今までなかなか手がつけられませんでした。それが国でそういった予算を盛り込んでもらったおかげで、現在、管内一円で進めているところです。河川の維持管理を適正にやるとともに、いわゆる円滑な水の流れを確保していこうということで、現在やっています。

また、付け加えますと、特に蛭川については、舗装等含めて堤防の強化もやっています。これが、千曲側の高さ、いわゆるバックウォーターのラインで堤防を盛り上げているので、千曲川がいわゆる規定の水位までのところであればよいけれど、どうしてもそれ以上に上がって最終的にそれを超えてしまえば、その中のところはどうしても水がつくようになるということです。県といたしましては、一級河川の管理をしっかりとするとともに、引き続き堤防の強化を含めて、しっかりとしたものを作っていきたいということですが、最終的にはそういった状況になるということもご理解いただきたいと思います。

<委員>

これからも住民自治協議会或いは河川愛護会のところで要望に行くとか、毎年やっているとありますので、そのところで詳しい話をしながら、予算も可能な限りとってもらえれば、こんなにも綺麗になるんだというのをしみじみと思ったところありますので、

よろしくお願いします。

<委員長>

この資料2の11ページに遊水地の整備ということで、松代より上流にあるのが埴生と平和橋と塩崎になるかと思いますが、そこで、能力といいますか、ここでも千トン或いは何万トン溜められて、ピーク時にはこちらへ流入するようにしているということは、そのすぐ下流の松代はこの恩恵を受けて、水位がこのぐらい下がるというような、そんなシビアな計算でなくても、見える化できると良いと思います。例えば2019年の規模でとか、そのときこのくらいはカットされる計算ですというような、専門家でなく一般の人たちにわかりやすく効果が発揮できるなということがわかる図もあると、文章だけよりは、住自協の人たちも目で見えて遊水地などの効果がわかると思うので、見える化によって安心感が増すのではないかなと思うので、そういう配慮もしていただければありがたいなと思います。

<国>

そういった効果の見える化というのはとても大事なことだと思います。今日の資料の中には入っていませんが、例えばこの上流側に作る塩崎遊水地や埴生遊水地など、こういった遊水地の貯留効果であるとか、河道の中を掘ることによって安全に流せる水量をふやして、それによって水位がどう低下するかというのはシミュレーションしていますので、そういったものを地域の方々に、箇所ごとに、河川の方は縦断勾配でやってますので、そういった資料を地域の説明会等々で、丁寧に説明していきたいと思います。

<委員長>

もう5年も経てばデジタル技術も発達しますので、アプリとか、今、スマホの時代になってきていろんな形でいろんなものを利用できるようになってきていて、ソフト的なものも先行くともっと便利なるだろうし、施設のにも設備にしても進歩したなりのものにしてもらえるように、また、話を続けていっていただけるといいと思いますので、長沼や豊野では市が地区の委員会に行ってるようなので、違う形でも対応できるようにしておくといいと思います。

<市>

長沼と豊野につきましてはそれぞれまちづくり委員会がありますので、その中でまちづくりの方に市の職員も一緒に入りながら支援をさせていただいているような状況です。また、デジタルなど技術的なものに関しては、例えば長野市の防災のアプリの中で、普段聞こえづらい

ような防災無線も音声で聞けたり、文字で見たりできるというものもありますし、また水門を閉めるのを遠隔でやったりとか、そんな取り組みも進めています。

また、特に避難ですとか、避難所の運営等につきましても、先般松代でも住民の皆さんが避難所をどう運営していくのかというシミュレーションもしていただいていますし、そんなところにも、市の職員も入っていろいろ協議をしながらやっているところです。そういったソフトの面でも、引き続き一緒にやらせていただきたいと思いますと思っています。

<委員>

災害復興計画は令和2年から6年までの5年間ということで、まだ来年もありますが、長野市を中心としてそれぞれの担当課など、ご尽力いただき親身になって考えていただいて進んできたということについて本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。また、浅川改良事務所、或いは長野建設事務所それから千曲川河川事務所、皆さんには大変感謝申し上げます。まだいろいろな課題もあって、今後、復興には長い時間がかかると思いますので、それぞれいろいろな面でよろしくお願いします。

1点、やはりこの災害がまた起こるのではないかと我々が非常に心配しているのが、千曲川と浅川です。浅川については、先ほど話ありました通り、特に流域全体の問題として、またそれぞれの地区と連携を取った対策をぜひ講じて欲しいと思います。

もう一つ千曲川ですが、やはりこれは長沼だけの問題ではなくて、浅川・千曲川流域の人にとって、流域全体の問題です。復興道路から始まって、護岸工事などありますが、これは長野市にとって全体の問題として位置付けて欲しいと思います。

プロジェクトは9年度までであると思いますが、それぞれの関係する地区はいっぱいあるので、やはり進捗状況或いは問題点などいろいろなこと、課題を共有し合って、事業の進捗状況をできるだけ、議員も含めて委員会だけではなくて、住民の中の勉強会やら報告会、そういう組織で報告できるようなものが大事だと思っています。

たまたま58年の水害では飯山で切れて、今回は長沼で切れたということですが、これからどこが切れるかわからない。浅川は100年確率で、100年に一度の災害では床下は仕方がないという対策ですが、それでは困ります。

千曲川が何年確率なのか、もしわかったら教えてもらいたいのですが、今の計画が何年確率の計画なのか、千曲川としても、特に下流の豊野地区については、非常に災害の心配があるところですので、その辺も教えていただければということと、まだ事業も完成しておりませんので、今後も報告をして欲しいと、御礼と要望を兼ねて申し上げますが、よろしくお願いします。

<委員長>

本当に関係当局と言いますか、そういうところ本当に必死になって頑張ってやっていただいていると思います。

国土交通省は国土の強靱化にあたって、今までの確率降水量、流量という考え方をどうするかということと、気象ですから大きい変動もありますので、100年と言われても、もうそれで追いつかない部分も出てきたり、いろんなことがありますので、例えば直近30年、その前後にあった最大規模とか、いろいろな表現になってきてる部分もありますので、そういう一般の皆さんにもわかりやすいように、機会あるたびに教えていただけるようにしていただけると、それが歴史になって学習になって、それも成長ですので、協力し合いながらお互いにやっていただければありがたいなと思います。

<国>

令和元年東日本台風の洪水に対しては、緊急治水対策プロジェクトで国、県、流域の市町村、それから皆さんも含め連携して、目標とすると令和元年東日本台風洪水、これに対して千曲川本線からの越水等による家屋部の浸水防止を図る、これを達成するために、緊急的、かつ段階的にプロジェクトを進めております。

その後につきましても、昨年の12月、ちょうど1年前ですが、国の河川整備計画、今後、中長期の具体的にどういった治水対策等をするかという法定計画ですが、こちらにつきましても令和元年東日本台風洪水を踏まえ、昨年見直しをして、目標の流量も引き上げております。

それから、これから温暖化の影響で、災害、水害が激甚化・頻発化するということもありますので、国も県も含めた河川管理者だけでなく、流域のあらゆる関係者の皆さんと一体となった、流域治水、治水プロジェクト等もやっておりますので、こういった取り組みを進めてることも含めて、地域の方々にわかりやすく説明しながら、あらゆる関係者の皆さんと一緒に、水害に強い地域づくりを進めていきたいと思っておりますのでぜひご協力よろしく願いしたいと思っております。

<県>

浅川については、平成30年に外水対策ということで、流域に流れる水の対策として浅川ダムの完成・供用となっております。

今は一番大事な内水対策について、短期間の計画ということで、千曲川の緊急治水対策プロジェクトに合わせて前倒しして、令和6年度末までにポンプ施設の強化、並びに堤防の強化、

それから篠ノ井の岡田川についても、令和6年度末の完成を目途に、排水機場の整備を行っております。

浅川の内水についてはこの11月に準備会ができたということで、今は宅地部だけということですが、その先のところについても、今後また知恵を出していただく中で、できることはやっていくということで、私どももしっかり考えていきたいと思っており、まずはその一歩として、排水機場の整備等を行ったところです。

今後とも皆さんの意見を聞きながら、安心して暮らせるまちづくりに、しっかり対応させていただきますので、ご支援ご協力のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

4 そ の 他

資料1 6ページ 災害復興計画検討委員会について事務局から説明

5 閉 会